

平成22年 北海道内における住宅用火災警報器の奏功事例

朝(午前6時から午前11時まで)、昼(午前11時から午後3時まで)  
 夕方(午後3時から午後7時まで)、夜(午後7時から午後11時)、  
 深夜・早朝(午後11時から翌午前6時まで)

件数	月	時間区分	建物種類	原因概要	発見・通報・状況等
1	1	夜	戸建住宅	コンロ(グリル)の火の消し忘れ	居住者が、コンロの魚焼きグリルで魚を焼いて食事をしていたところ、魚が焦げて煙が発生した。この煙に住宅用火災警報器が感知し警報音を鳴らした。この警報音に居住者が気づき、グリル内の火を消したことにより、火災には至らなかった。
2	1	夕方	戸建住宅	電気こんろへの接触により可燃物が着火	居住者は、電子レンジのスイッチを入れるため、電源コードのプラグをコンセントに入れようとしたが、誤って、そばにある電気こんろのプラグをコンセントに入れてしまった。その後、電気こんろが加熱し、電気こんろを置いていた棚の内部及び接していたカーテンに燃え移った。この煙を住宅用火災警報器が感知し警報音を鳴らし、この音に気づいた居住者が初期消火を試みたが消火できず、隣人に119番通報を依頼した。
3	2	夕方	併用住宅 (店舗・住宅)	天ぷら油を加熱中、目を離してしまった	居住者は、揚げ物をするため、クッキングヒーター(電気式)の火力を最大にし、鍋にサラダ油を入れて加熱していたが、その場を離れたことにより炎と煙が発生した。その煙にホームセキュリティが感知し警報音を鳴らすとともに、コールセンターに火災信号を送信した。警報音に気付いた家人は台所へ行き消火器により消火した。
4	2	夕方	戸建住宅 (2世帯)	天ぷら油を加熱中、目を離してしまった	居住者は、古いサラダ油に凝固剤を入れて処理するため、ガステーブル上のフライパンを加熱していたが、このことを忘れて2階の部屋にいたところ、住宅用火災警報器が鳴り、台所へ行くとフライパンから炎と煙が上がっているのを確認し119番通報した。その後、近くにあった鉄製のトレイをフライパンに被せて消火した。
5	2	昼	アパート・マンション等	電子レンジで食品を温め中、白煙が発生	電子レンジで食品を温め中、白煙が発生し居室内に充満し住警器が作動したため、火災に至らなかった。
6	2	朝	アパート・マンション等	電子レンジ内の冷凍食品が焦げた	居住者が、冷凍食品を調理するため電子レンジで加熱していたところ、台所にある住宅用火災警報器が鳴ったため、台所を確認すると電子レンジから煙が出ているのを発見し、携帯電話で119番通報した。その後、電子レンジのスイッチを切ったことにより火災には至らなかった。
7	2	夜	戸建住宅	使い捨てガスライターの上に物を乗せて火が点いたもの	押し入れの荷物を出そうとして、使い捨てガスライターが入った箱の上に荷物を移動させた際に着火したことに気付かず時間が経過し、その部屋及び居間の住宅用火災警報器が作動して火災に気がつき、水道水及び浴槽の水をかけて初期消火した。
8	2	夕方	戸建住宅	都市ガステーブルの取り扱い不注意	家人がそばを温めるため、台所で都市ガステーブルに片手鍋をかけたまま、居間で新聞を読んでいたところ、鍋が空焚き状態となり、発生した煙で台所に設置していた住宅用火災警報器が作動した。警報音に本人が気づき、水道水により鍋を冷却したものである。
9	3	昼	戸建住宅	コンロの火の消し忘れ	鍋を火に掛けたまま消さずに外出してしまい、空だき状態となり室内に煙が充満したところへ訪問販売員が訪れ、警報音と換気口からの煙を目撃し、携帯電話で110番通報した。その後警察から通報を受け消防隊が到着したときには、LPガスが遮断され、コンロの火は消されていたため、鍋と内容物が焦げただけで火災には至らなかった。

平成22年 北海道内における住宅用火災警報器の奏功事例

朝(午前6時から午前11時まで)、昼(午前11時から午後3時まで)  
 夕方(午後3時から午後7時まで)、夜(午後7時から午後11時)、  
 深夜・早朝(午後11時から翌午前6時まで)

件数	月	時間区分	建物種類	原因概要	発見・通報・状況等
10	3	深夜・早朝	戸建住宅	コンロ(グリル)の火の消し忘れ	夫からの電話で、帰宅後に食事をすると言うので食事の準備をした。その時にガスレンジのグリルを使用し魚を焼いた。魚は焼けたので取り出して電子レンジに入れたがガスの火を消し忘れたまま居間でテレビを見ていた。数分後に住宅用火災警報器が「火事です！火事です！」と鳴り出したので台所を見ると、煙が上がっておりグリル内が赤くなっているのを発見。消防へ通報。慌てた婦人は隣の家に助けを求め、隣から婦人と娘が来て、台所のガスレンジの魚焼きグリル内が燃えているのを見て、付近にあったタオルケットを使い消火した。
11	3	昼	戸建住宅	コンロの火の消し忘れ	家人がうどんを温めるため、ガスコンロに鍋をかけたまま放置したため、鍋の内容物が焦げ、台所併用の居間に設置していた住宅用火災警報器が作動した。発報音で家人が気づき、台所併用の居間の天井に煙が充満し、ガスコンロ周辺から煙が上がっていたため、119通報し、鍋に水道水を入れ、消火したもので、早期発見によって人的被害がなく、火災には至らなかった。
12	3	夜	戸建旧宅	たばこの火の不始末	居住者が、会社から帰宅したところ、住宅用火災警報器が鳴っており、きな臭かったため2階に向かうと、こたつから炎と煙が上がっていたため、風呂場の水で消火し、その後119番通報した。
13	3	朝	アパート・マンション等	鍋の空焚き	5階の住人が部屋の中が煙臭いので、居室を調べたが異常はなかった。階段室に出て煙を確認し、3階まで下りて、玄関ドアの新聞受けを押し開けたところ白煙が外に出てきた。ドアの向こう側で警報音が鳴っているのに気づき、ドアを叩くなどしたが反応がないため、消防へ通報した。消防隊が隣室のベランダから当該部屋のベランダに移動し、寝ている家人を確認した。窓を叩いても家人が起きないため、窓ガラスを破壊して内部進入した。台所で鍋の空焚きで焼いた煙により、設置された住宅用火災警報器が鳴動した。鍋の内容物が炭化しただけで、火災に至らなかった事案である。
14	3	朝	戸建住宅	ガスこんろにかけた天ぷら油の火の消し忘れ	居住者が天ぷら油に廃食用処理剤を入れ固めて処理するため点火させた。放置したまま用事を済ませていたところ、設置してあった住宅用火災警報器(煙感知器)が鳴動したため台所に戻るとガスコンロ付近から炎が上がっているのを発見する。通報にあつては、居住者が119番通報している。
15	4	朝	戸建住宅	プロパンガステーブルの消し忘れ	家人がプロパンガステーブルのグリルで魚を焼いた後、グリルの火を消し忘れたため、受け皿に溜まった油類に着火、発生した煙により、階段室に設置していた住宅用火災警報器が作動した。警報音に本人および隣人が気づき、水道水と消火器で初期消火したものである。
16	4	朝	アパート・マンション等	都市ガステーブルの取り扱い不注意	家人が、都市ガステーブルで煮物を作るため、鍋をかけたのを忘れてしまい、空焚きの状態となったことから、発生した煙により、台所に設置していた住宅用火災警報器が作動した。警報音に本人および隣人が気づき、水道水により鍋を冷却したものである。
17	4	昼	戸建住宅	コンロ(グリル)の火の消し忘れによる外出	ガスこんろに鍋をのせて火を着けたまま外出し、鍋が空焚きにより住警器が作動したものである。ところが、隣家の協力員に当該住宅と無線連動の住警器が設置されていたため、協力員宅の無線連動型住警器についても発報。協力員は直ちに119番通報をすると共に、スペアキーを用いて住宅内に進入したところ、ガスこんろの火が着いており、鍋が空焚き状態で室内には煙が充満していた。そこで、直ちにこんろの火を消したため火災には至らなかったものである。

平成22年 北海道内における住宅用火災警報器の奏功事例

朝(午前6時から午前11時まで)、昼(午前11時から午後3時まで)  
 夕方(午後3時から午後7時まで)、夜(午後7時から午後11時)、  
 深夜・早朝(午後11時から翌午前6時まで)

件数	月	時間区分	建物種類	原因概要	発見・通報・状況等
18	4	夕方	公営住宅	グリル受け皿に付着した油がすに着火	平屋建てC B造の公営住宅台所において、18時過ぎからガスコンロで魚を焼いていたところ、部屋に煙が充満し居間に設置してある煙感知器が発報し、その後、魚焼きグリルの排気口から炎が上がっているのを発見した。 水を含ませた布巾を覆い被せて消火したもので火災には至らなかった。
19	4	深夜・早朝	アパート・マンション等	天ぷら油を加熱中、目を離してしまった	居住者が、揚げ物をするため天ぷら油を鍋に入れガステーブルで加熱していたが、電話が鳴ったため目を離してしまった。その後、発生した煙によって住宅用火災警報器が警報音を鳴らし、この音に気づいた居住者が台所に行ったところ鍋から炎が上がっているのを発見し、布団、タオル等で鍋を覆って初期消火した。 また、直上の部屋の居住者は警報音に気づき、ベランダに出たところ、直下の部屋から煙が発生しているのを確認し119通報した。
20	4	朝	共同住宅	コンロの火の消し忘れ	居住者がガスコンロに鍋をかけていた事を忘れ、鍋が空焚き状態になり煙が発生した。この煙に寝室の住宅用火災警報器が感知し警報音を鳴らした。この警報音に居住者が気づきガスコンロのガスを止め、鍋をシンクに下ろし水道水をかけたことにより、火災には至らなかった。
21	5	夕方	戸建住宅	プロパンガステーブルの取扱い不注意	家人が、プロパンガステーブルに鍋をかけたのを忘れてしまい、空焚き状態となったことから、発生した煙により、居間に設置していた住宅用火災警報器(煙式)が作動した。警報音に本人が気づき、ガステーブルを消したものである。なお、住宅用火災警報器は緊急通報システムの一部として組み込まれたものであり、このことにより消防機関が覚知したものである。
22	5	朝	アパート・マンション等	移動式灯油ストーブ上に可燃物が落下した	居住者が入浴していたところ、住宅用火災警報器が鳴ったため、浴室から出て警報音の間こえる方へ行っところ、点火作動中の移動式灯油ストーブ上にボックスティッシュがあり、そこから煙が発生していた。その後、直ちに119番通報するとともにボックスティッシュを取り除いたことにより、火災には至らなかった。
23	5	深夜・早朝	戸建住宅	屋内配線の短絡	居住者が、2階の寝室で就寝中、犬の鳴き声と住宅用火災警報器の警報音で目を覚まし、1階へ降りようとしたところ、煙と強い熱気を感じ、1階に就寝している家族を起こし屋外へ避難した。 原因は、階段室の壁の中にある電気配線が短絡し埃などに燃え移ったもので、119番通報は近隣住民が行った。
24	5	昼	戸建住宅	延長コードの加熱で被覆が焼失した	居住者が1階でテレビを見ていたところ、パチパチと音がして直後に2階から住宅用火災警報器の警報音が鳴ったため2階への階段を上ろうとしたところ、2階が煙で充満しているのを発見した。その後、2階の廊下に設置してあった本棚の上の物品が燃えているのを確認したため、すぐに台所に戻りバケツに水を汲み、初期消火を行い、その後、119番通報した。
25	5	夕方	アパート・マンション等	プロパンガステーブルの取扱い不注意	家人が、プロパンガステーブルに鍋をかけたまま寝込んでしまい、空焚き状態となったことから、発生した煙により、居間に設置していた住宅用火災警報器(煙式)が作動した。警報音に同建物(3階)の居住者本人が気づき、119番通報したものである。
26	5	朝	戸建住宅	たばこの火の不始末	居住者が2階で喫煙した後、吸殻を灰皿でもみ消し、樹脂製のゴミ箱に捨てて外出した。その後、3階にいた家族が2階で住宅用火災警報器が鳴っている音を聞き、2階に行くくと居間のテーブル付近から炎が上がっているのを発見し119番通報した。

平成22年 北海道内における住宅用火災警報器の奏功事例

朝(午前6時から午前11時まで)、昼(午前11時から午後3時まで)  
 夕方(午後3時から午後7時まで)、夜(午後7時から午後11時)、  
 深夜・早朝(午後11時から翌午前6時まで)

件数	月	時間区分	建物種類	原因概要	発見・通報・状況等
27	6	深夜・早朝	戸建住宅	たばこの火の不始末	居住者が1階の寝室で就寝中、何か「ピーピー」と音が鳴っていることに気付いたが、住警器の鳴動音であることは分らなかった。そこで玄関に行くのと2階階段の住警器の鳴動であることが分ったため直ぐに2階に行くと、洋室で出火していることを発見したが、消火不可能であると判断し避難した。なお、2階の全域を焼損したが、住警器の鳴動があったため「逃げ遅れ」や「建物全焼」を回避できたものと思われる。しかし、もう少し早く警報音が住警器の鳴動であると判断出来ていたとすれば、被害の軽減に繋がったものとも思料される。
28	6	夕方	戸建住宅	コンロ(グリル)の火の消し忘れ	居住者がコンロの魚焼きグリルで魚を焼いているのを忘れ、居間でテレビを見ていたところ、グリル内の油に着火しグリル排気口から炎があがったもの。この煙を住宅用火災警報器が感知し鳴動、この音で居住者が気づきコンロに水をかけ消火、火災に至らなかったもの。
29	6	夕方	戸建住宅	プロパンガステーブルの消し忘れ	家人が、プロパンガステーブルに鍋をかけたのを忘れてしまい、空焚きの状態となったことから、発生した煙により、居間に設置していた住宅用火災警報器(煙式)が作動した。警報音に本人が気付く、ガステーブルを消したものである。なお、住宅用火災警報器は緊急通報システムの一部として組み込まれたものであり、このことにより消防機関が覚知したものである。
30	6	昼	戸建住宅	都市ガステーブルの消し忘れ	家人が、都市ガステーブルに鍋をかけたのを忘れてしまい、空焚きの状態となったことから、発生した煙により、居間に設置していた住宅用火災警報器(煙式)が作動した。警報音に本人が気付く、都市ガステーブルを消したものである。なお、住宅用火災警報器は緊急通報システムの一部として組み込まれたものであり、このことにより消防機関が覚知したものである。
31	6	昼	戸建住宅	ガスコンロにかけた鍋を放置したまま、外出したものの。	火災の通報にあっては、同じ町内に住む住民が警報音に気づき、音の発生場所を探したところ、火元建物2階から煙が出ているのを発見し、近くにいた者に依頼、その者が通報したものの。消防隊が到着した際には、天ぷら鍋の油は燃え尽き、鍋がこげていたが、建物自体への延焼はなかった。鍋に残っていた油が少量であったため、火災に至らなかったと推定される。
32	6	夕方	4軒長屋 (町公営住宅)	ガステーブルの消し忘れ	家人がガステーブルに鍋を置き、火をつけたまま忘れてテレビを見ていたところ、空焚き状態になった鍋から発生した煙により居間兼寝室に設置していた住宅用火災警報器が作動した。警報音に気づいた家人が火を止め、水道水により鍋を冷却し一般加入電話により消防機関へ通報した。
33	6	昼	戸建住宅	取灰の不始末 薪ストーブで紙を焼却し、消えたと思いきみ取灰をゴミと一緒にビニール袋へ入れ、裏玄関に置いたもの。	家主の妻が、建物から5メートル程離れた庭で手入れをしている時に、居間の開放された窓からピーッ、ピーッ」と警報音が聞こえた。確認のため、玄関から入り建物内を調べ台所まで行くと奥の部屋で煙と炎を確認した。妻は2階にいる夫に火災を知らせ、夫が1階居間から119番通報し妻と屋外へ避難、さらに二人は出火室のそばにある散水栓から裏玄関を開放し、消火を試みるも消火には至らなかったが、この事例は火災の早期発見、通報、避難、消火により部分焼に止まったものである。

平成22年 北海道内における住宅用火災警報器の奏功事例

朝(午前6時から午前11時まで)、昼(午前11時から午後3時まで)  
 夕方(午後3時から午後7時まで)、夜(午後7時から午後11時)、  
 深夜・早朝(午後11時から翌午前6時まで)

件数	月	時間区分	建物種類	原因概要	発見・通報・状況等
34	6	朝	アパート・マンション等	ガスコンロに鍋をかけたまま外出	2階居住者が住宅用火災警報器の鳴動に気付く、外を確認すると1階の換気口から煙が出ているのを見付け、119番通報を行う。消防隊が到着した際、ベランダは施錠されておらず、そこから入室した。鍋の内容物のみを焦がし、建物等への延焼はなかった。
35	6	夜	アパート・マンション等	たばこの火の不始末	居住者が、自室で喫煙した後外出し、10分後、帰宅したところ2階に設置した住宅用火災警報器が鳴っていたことから、自室のドアを開けたところ煙が充満しており、掛布団が灰皿の上にかぶさった状態で燻っていた。直ちに初期消火し焼損物を屋外へ運び出した。119番通報は、屋外へ運び出した焼損物がしばらくして、再び燃え出したことにより居住者が行った。
36	7	夜	6項八(共同生活援助を行う施設)	魚焼をしたもの	セコムから加入電話にて火災センサーの通報が入っているとの内容により消防隊が出動。現着時、火災の発生はなく通報者も確認されていないため再度通報者に現場確認をした所、社会福祉法人が運営する類似名称の対象物と判明。その後施設の責任者と接触し状況聴取したところ、入居者が電子レンジを使用し窓を閉め切って魚を焼き、煙が充満し火災センサーが発報したものと確認する。
37	7	朝	アパート・マンション等	鍋の空焚き	居住者が台所で料理をしていたが、目を離れた際に、鍋の内容物が焦げて大量の煙が立ち上がり、住宅用火災警報器が警報音を鳴らした。この音に居住者が気づき、直ちにガスコンロを消したことにより火災には至らなかった。
38	7	朝	木造平屋建て住宅	鍋の空焚き	緊急通報システムの火災センサーにて消防覚知、応答がないため消防隊が出動する。現着時火災の発生はなく(家人(81歳男性)と接触し住宅内を確認すると、台所を中心に煙が充満している状態。家人によると、ガステーブルに鍋をかけたまま知人と庭先で話しこんでしまい、気づいて住宅に戻った時には鍋が焦げて煙が充満していたとの事であった。
39	7	夕方	アパート・マンション等	コンロの火の消し忘れ	一人住みの男性(60代)が麦茶のティーバッグを鍋に入れ煮出したところ、そのことを忘れ外出した。発見は隣の部屋にすむ30代女性が異臭に気づき外に出て確認したところ発生場所より住宅用火災警報器の発報音がしたため、同居する母親(60代)に119番通報を頼んだもの。
40	7	夜	共同住宅	プロパンガステーブルの消し忘れ	家人が、プロパンガステーブルに鍋をかけたのを忘れてしまい、空焚きの状態となったことから、発生した煙が開放されていた寝室に流れ込み、住宅用火災警報器(煙式)が作動した。警報音に本人が気付く、ガステーブルを消したもので火災には至らなかった。なお、住宅用火災警報器は緊急通報システムの一部として組み込まれたものであり、このことにより消防機関が覚知したものである。
41	7	昼	4軒長屋(村営住宅)	ガスコンロに鍋をかけたまま外出	となりの家から住宅用火災警報器の警報音が聞こえたため外に出てみると、風呂場の窓から煙が出ていた為、携帯電話から消防署に通報した。家人は外出中で、現場到着した消防隊が台所のガスコンロの火を止め、火災には至らなかった。台所で家事をしていた際に誤ってガスコンロの点火スイッチを押し、点火したことに気づかず外出。その後、ガスコンロ上に置いてあった鍋が空炊き状態になり、煙が室内に充満したと推察される。
42	7	夕方	市営住宅	都市ガステーブルの消し忘れ	家人が、都市ガステーブルに鍋をかけたのを忘れてしまい、空焚きの状態となったことから、発生した煙が開放されていた寝室に流れ込み、設置していた住宅用火災警報器(煙式)が作動した。警報音に本人が気付く、ガステーブルを消したもので火災に至らなかった事例である。

平成22年 北海道内における住宅用火災警報器の奏功事例

朝(午前6時から午前11時まで)、昼(午前11時から午後3時まで)  
 夕方(午後3時から午後7時まで)、夜(午後7時から午後11時)、  
 深夜・早朝(午後11時から翌午前6時まで)

件数	月	時間区分	建物種類	原因概要	発見・通報・状況等
43	7	夕方	アパート、マンション	鍋の空焚き	居住者が調理中にうたた寝をしまい、鍋の内容物が焦げて大量の煙が発生し、住宅用火災警報器が警報音を鳴らした。この音に当該建物付近を通りかかった人が気づき119番通報した。なお、初期消火は行われておらず、消防隊が確認したところ鍋の内容物のみの焼損であった。
44	7	夜	戸建住宅	天ぷら油を加熱中、目を離してしまった	居住者が、調理するため鍋に天ぷら油を入れ、台所のガステーブルで加熱していたが、このことを忘れてその場を離れてしまった。その後、鍋から炎が上がったことにより、台所に設置の住宅用火災警報器が感知し警報音を鳴らした。この警報音に居住者が気づき台所に駆けつけたところ、鍋から炎が上がっており119番通報した。なお、同じ建物にいた別の家族が初期消火を行ったが消火しきれず、火事に気付いて駆けつけた近隣住民が消火器で消火した。
45	7	朝	アパート・マンション等	オーブントースターの消し忘れ	居住者が、オーブントースターで調理していたが、そのままの状態であつたまま台所を離れてしまった。その後、台所に設置の住宅用火災警報器が警報音を鳴らしたため台所に行くと、オーブントースターから煙が立ち上がっていたことから、居住者が直ちにオーブントースターの内容物を取り出したことにより、火災には至らなかった。
46	7	夜	共同住宅	鍋の空焚き	居住者がガスコンロに鍋をかけていることを忘れて、空焚きになり居間の住警器が鳴った。居住者及び隣人が警報音に気づき、居住者がガスコンロの火を止め、火災には至らなかった。
47	8	深夜・早朝	共同住宅	都市ガステーブルの消し忘れ	家人が、都市ガステーブルに鍋をかけたのを忘れてしまい、空焚きの状態となったことから、発生した煙が開放されていた寝室に流れ込み、設置していた住宅用火災警報器(煙式)が作動した。警報音に気付いた隣人が、119番通報に及んだもので火災に至らなかった事例である。なお、本人については居間のソファで就寝中であつた。
48	8	夕方	戸建住宅	鍋の空焚き	居住者は、調理するため台所のガステーブルで鍋を加熱していたが、そのことを忘れて外出した。その後、加熱された鍋から煙が発生し、この煙に住宅用火災警報器が感知して警報音を鳴らした。この音を聞いた近隣住民が119番通報するとともに、ガスコンロの火を消したことにより、火災には至らなかった。
49	8	深夜・早朝	2階建て長屋住宅	ストーブの異常燃焼	ストーブの異常燃焼に伴って発生した煙に住宅用火災警報器が感知して警報音を鳴らし、この音に付近住民が気づいて119番通報した。駆けつけた消防隊がストーブを消火したことにより、火災には至らなかった。
50	8	深夜・早朝	分譲マンション	コンロを使用中に寝てしまった	居住者が、コンロで煮物を温めていたのを忘れて寝てしまい、寝室に設置されていた「警報器」が作動し、警報音により目覚めコンロの火を消したことにより、火災には至らなかった。
51	8	深夜・早朝	共同住宅	電気万能ロースターの取扱い不注意	家人が、ロースターで魚を焼いていたのを忘れてしまい、焦げた煙が開放されていた寝室に流れ込み、設置していた住宅用火災警報器(煙式)が作動した。警報音に気付いた隣人が119番通報に及んだもので、火災には至らなかった事例である。なお、本人については寝室で就寝中であつた。
52	8	夕方	共同住宅(市営住宅)	ガスコンロに鍋をかけたまま放置	家人がガスコンロに鍋をかけたまま寝込んでしまったため住宅用火災警報器が作動。家人が目覚めずと室内に煙が充満していたため、外に避難し隣人に119番通報を依頼。消防隊が現場到着と同時にガスコンロの火を消したものである。鍋の内容物を焦がしたが建物等への延焼はなかった。

平成22年 北海道内における住宅用火災警報器の奏功事例

朝(午前6時から午前11時まで)、昼(午前11時から午後3時まで)  
 夕方(午後3時から午後7時まで)、夜(午後7時から午後11時)、  
 深夜・早朝(午後11時から翌午前6時まで)

件数	月	時間区分	建物種類	原因概要	発見・通報・状況等
53	8	夕方	共同住宅	ガスコンロに鍋をかけたまま外出したもの	家人がガスコンロに鍋をかけたまま外出してしまい、鍋が空焚き状態になり発生した煙により、寝室に設置していた住宅用火災警報器(煙式)が発報した。その際、通りかかった新聞配達員が玄関先から焦げ臭さと警報音に気づき119番に通報した。消防隊が到着したところ、コンロの消し忘れ消火機能により火、煙はなく鍋の収容物が炭化のみに留まり火災には至らなかった。
54	8	夜	戸建住宅	ガステーブルの火の消し忘れ	居住者が、ガステーブルに鍋(味噌汁)をかけ、食事を取るが火を消し忘れ、食後、体調不良により居間で倒れ込んでしまった。住宅用火災警報器(煙式)が発報し、警報音に気付いた隣人が駆けつけガステーブルの火を消し、鍋へ水をかけ、室内の換気を行った。
55	9	朝	戸建住宅	ガステーブルの消し忘れ	家人(80歳)がガステーブルの上に油をひいたフライパンをのせ、火に掛けたままトイレに行ったところ、発生した煙を居間に設置していた住宅用火災警報器(煙式)が感知して発報したものの、警報音に気づいた家人が、ガステーブルの火を消したことでフライパンを焦がしたが火災には至らなかった。
56	9	夜	住宅付旅館	ガステーブルの消し忘れ	家人(76歳)が、台所のガステーブルに鍋をかけた煮物をしていたのを忘れその場を離れた後、鍋から煙が発生し、台所に設置されていた住宅用火災警報器(煙式)が作動したものの、警報音に気づき、ガステーブルの火を消し、鍋に水道の水をかけた後、換気扇を作動させ窓を開放した後119番通報したものの、鍋の底が焦げたのみで、火災には至らなかった。
57	9	夜	共同住宅	ガスコンロの消し忘れ	1階に住む家人が蕎麦を茹でるため、鍋に水を張りコンロにかけ蕎麦を茹でている時に寝てしまった。その後、時間経過によって鍋から煙が発生し隣の寝室に流れこみ、住宅用火災警報器(煙)が感知し発報、2階の住人は、焦げた臭いと「ピーッ、ピーッ」と警報音が聞こえたため、119番通報をした。 先着の消防隊が内部侵入(施錠なし)したところ、室内は煙が充満しコンロは着火状態、家人は長椅子で横になり傾眠状態であったため、コンロを消し排煙を行い、家人を救急隊へ引き継いだもの。
58	9	夕方	共同住宅	蛍光灯からの発煙(安定器の絶縁劣化による発熱)	共同住宅の2階に居住する夫婦が居間で食事を取っていたところ、台所に設置していた住宅用火災警報器(煙式)が作動した。警報音に気付いた夫が、蛍光灯から煙が出ていたため、すぐに取り外し屋外に運び出したもので、火災には至らなかった事例である。
59	9	朝	戸建住宅	鍋の空焚き	居住者が台所で料理をしていたが、目を離れた際に、鍋の内容物が焦げて大量の煙が立ち上がり、住宅用火災警報器が警報音を鳴らした。この警報音を聞いた居住者が119番通報するとともに、ガスコンロの火を消したことにより、火災には至らなかった。

平成22年 北海道内における住宅用火災警報器の奏功事例

朝(午前6時から午前11時まで)、昼(午前11時から午後3時まで)  
 夕方(午後3時から午後7時まで)、夜(午後7時から午後11時)、  
 深夜・早朝(午後11時から翌午前6時まで)

件数	月	時間区分	建物種類	原因概要	発見・通報・状況等
60	9	夕方	共同住宅	ガスコンログリル内の油に着火したものと	<p>国勢調査員が調査のため、共同住宅2階に上がると何かの音がした。気になり聞こえる方へ進むと玄関の戸が開いたままの室内から「ピーッ、ピーッ、火事です！火事です！」と聞こえたため、家人(83才独居女性)に「奥さん、どうしたの?」と問いかけながら室内を見ると、台所のガスコンログリルから多量の煙と高さ30cm程の炎があがっており、家人はおどおどしていた。</p> <p>調査員は、携帯電話で119番通報をしつつ、隣人に消火のため外に駐車中の夫へ連絡するよう話し、通報後近くにあった洗面器の水を少しずつかけ消火を始めた。連絡を受けた夫は、玄関横に設置の消火器を操作したが、レバーが錆により固着し使用は出来なかったが、洗面器の水で何とか消火したところに消防隊が到着した。</p>
61	10	深夜・早朝	共同住宅	コンロの火の消し忘れ	<p>居住者が、鍋をガスコンロにかけたまま火を消さずに寝込んでしまい、下階の居住者が住警器の発報した音に気付く焦臭さを感じたため119番通報する。居住者は、住警器の発報で目が覚め、すぐにガスコンロを消したため鍋を焦がしただけで済んだ。</p>
62	10	朝	共同住宅	オーブントースターの消し忘れ	<p>居住者が、オーブントースターで調理していたが、そのままの状態であれを離れてしまった。その後、台所に設置の住宅用火災警報器が警報音を鳴らしたため台所に行くと、オーブントースターから煙が立ち上がっていたことから、居住者が直ちにオーブントースターの内容物を取り出したことにより、火災には至らなかった。</p>
63	10	昼	共同住宅	鍋の空焚き	<p>居住者が、調理のため台所のガステーブルで鍋を加熱していたが、そのことを忘れて外出した。その後、鍋から煙が発生し、住宅用火災警報器が警報音を鳴らした。この音に同建物の住人が気づき119番通報した。その後、到着した消防隊がガステーブルの火を消したことにより、火災には至らなかった。</p>
64	10	昼	戸建住宅	ガステーブル(グリル)の火の消し忘れ	<p>居住者が、コンロの魚焼きグリルで魚を焼いているのを忘れ、隣人宅へ出かけた。居間の火災センサ - 付き緊急通報システム(煙式)が発報し、北海道安全センタ - より通報を受け消防隊が出動する。協力員により室内換気されていた。コンロは温度センサ - 付きのため、自動消火されていた。初期消火なし。</p>
65	10	夕方	戸建住宅	ガステーブルの消し忘れ	<p>家人(66歳)がガステーブルのグリルで魚を焼くため、火をかけたままリビングでテレビを見ていたところ、発生した煙を台所に設置していた住宅用火災警報器(煙式)が感知して発報した。同じリビングにいた息子が警報音に気付く、閉めていた台所の引き違い戸を開けたところ、台所内には黒煙が充満しており、ガスコンロの後ろ側より炎があがっていたため、台所に備えていたエアゾール式消火器2本を使用したが発火できず119番通報した。発見が早かったためガステーブル付近のみ焼損したばかりにとどまり大きな被害に至らなかった。</p>
66	10	朝	アパート、マンション等	鍋の空焚き	<p>居住者が食事を作るため、ガステーブルで鍋を加熱していたが、その場を離れて電話していたところ、住宅用火災警報器が感知し警報音を鳴らした。台所を確認すると鍋から煙が出ていたため、直ちにガステーブルの火を消したことにより、火災には至らなかった。</p>

平成22年 北海道内における住宅用火災警報器の奏功事例

朝(午前6時から午前11時まで)、昼(午前11時から午後3時まで)  
 夕方(午後3時から午後7時まで)、夜(午後7時から午後11時)、  
 深夜・早朝(午後11時から翌午前6時まで)

件数	月	時間区分	建物種類	原因概要	発見・通報・状況等
67	11	深夜・早朝	小屋付住宅	調査中(ストーブ付近から出火)	就寝中、世帯主及び妻が住宅用火災警報器(煙式・2階階段設置)の警報音に気付き目覚めた。室内に煙が充満していたので、一緒に寝ていた長女及び次女を避難させるとともに、1階寝室で就寝中の父及び母を起し、避難を促し、全員無事避難した。その後、世帯主が119番通報した。避難した6名のうち、4名が避難の際に煙を吸い込み救急搬送されたが、何れも軽症であった奏功事例である。なお、初期消火は実施されていない。
68	11	夜	アパート、マンション等	電子レンジによる過加熱	居住者が電子レンジでホットケーキを温めていたところ、加熱し過ぎて内容物が焦げ煙が発生した。この煙により住宅用火災警報器が警報音を鳴らし、この音に気づいた居住者が119番通報するとともに、ホットケーキを電子レンジから取り出したことにより、火災には至らなかった。
69	11	夕方	アパート、マンション等	コンロの火の消し忘れ	居住者が魚を煮ている最中に、テレビに見入ってしまったところ、煮物が焦げて煙が発生した。この煙に住宅用火災警報器が感知して警報音を鳴らした。この音に気づいた居住者が直ちにガステーブルの火を消したことにより、火災には至らなかった。
70	11	深夜・早朝	戸建住宅	放火	居住者が就寝中に住宅用火災警報器の警報音が鳴っていることに気づき、寝室のドアを開けたところ、煙が充満していたため、玄関からの避難をあきらめ、居間のベランダから屋外に避難した。 原因は、何者かが玄関の郵便ポストから建物内部に放火したもので、119番通報は付近住民が行った。
71	11	夕方	戸建住宅	IHクッキングヒーターの電源スイッチの切り忘れ	IHクッキングヒーターに鍋をかけ過熱したままその場を離れたため、鍋の中の内容物が焦げて煙を上げ台所に設置していた住宅用火災警報器が鳴動した。独居の家人(84歳女性)がこの警報に気づき、IHクッキングヒーターの電源スイッチを切るとともに鍋を取り除いたため、火災に至らなかったものである。
72	12	深夜・早朝	戸建住宅	ガスコンロに鍋をかけたまま放置	独居老人世帯で居間の火災センサ - 付き緊急システム(煙式)が発報し、北海道安全センターより通報を受け消防隊が出動する。消防隊が家屋内を確認すると、煙が充満している状態であったが、ガスコンロは本人により止められており、鍋には水道水がかかけられ、内容物を焦がしただけで火災には至らなかった。居住者がレトルト食品(ハンパ - グ)を温めるため、鍋に水を入れガスコンロにかけたまま忘れてしまい、鍋及び内容物が焦げ煙が上がったもの。
73	12	深夜・早朝	共同住宅	ガスコンロに鍋をかけたまま寝る	家人の妻(81歳)がガスコンロに鍋をかけたまま寝てしまい、鍋の中の内容物が焦げて煙が立ち上がり、寝室に設置していた住宅用火災警報器が作動した。 寝室で寝ていた家人が警報音に気づき、ガスコンロの火を消し水道水により鍋を冷却し、窓と玄関の扉を開け排煙したものである。 なお、消防への通報については、同共同住宅の住人が帰宅した際に煙に気づき、その妻が通報したものである。
74	12	夕方	専用住宅	使い捨てライターがドア開放時に戸と柱に挟まれ点火状態となり、付近の紙くずに着火したものと推定	20代男性が2階において点火状態となったライターに気付かず1階に降り家族3人でくつろいでいたが、2階寝室の住警器が発報したため2階に上がったところ、火災を発見し座布団で初期消火し、1階の家族が119番通報をしたもの。